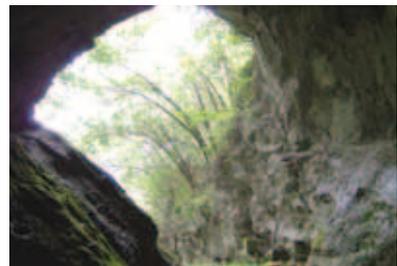
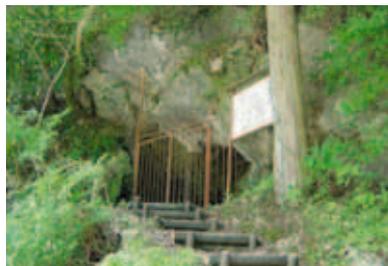
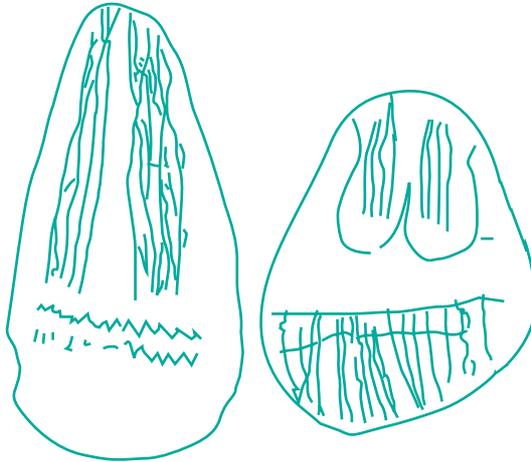


# 歴博だより

Museum of EHIME History and Culture's News



平成17年度企画展

## 上黒岩岩陰遺跡とその時代—縄文文化の源流をたどる—

昭和36年に発見された上黒岩岩陰遺跡(久万高原町)を取り上げ、縄文人の優れた技術と豊かな地域性を紹介します。

## 文書展示室・新収蔵文書の紹介

## 学芸員調査ノート

愛媛県最古の土器／宇和島鬮牛取組表／押型文土器／兵藤啓上卒格仰付書

全国屈指の縄文の至宝

# 上黒岩岩陰遺跡と

## その時代

縄文文化の源流をたどる

会期：平成17年7月16日〔土〕―9月5日〔月〕

会場：企画展示室



▲昭和30年代の上黒岩岩陰遺跡

“二万二千年前わたしたちの**原点**がここにある”

久万高原町（旧美川村）の上黒岩岩陰遺跡は、昭和36年に発見されて以来、5次にわたる考古学的な調査が行われてきました。その結果、層位的に確認された土器や石器、そして線刻礫などは、縄文時代草創期の文化を解明する上で欠くことのできない資料として、全国的にも高く評価されました。

この企画展では、慶應義塾大学等で保管されてきた出土遺物を、40数年ぶりに愛媛に里帰りさせ、一挙公開するとともに、西日本の主な縄文時代草創期の出土品も合わせて展示し、縄文人の優れた技術と豊かな地域性を紹介するものです。

四国山地の風土の中で培われた縄文文化を、上黒岩の岩陰に生きた人々の姿とともに追い求めてみようと思います。

■展示構成

- 序章 これは土器じゃないのかな？  
 - 発見!!土器の出る岩陰 -
- 第1章 12,000年前って、どんな時代？  
 1節 縄文文化の幕開けを告げるものたち  
 - 西日本の縄文時代草創期 -  
 2節 四国にはどんな遺跡があるのだろう?!
- 第2章 縄文人も生きていた仁淀川流域を歩いてみよう！
- 第3章 上黒岩岩陰遺跡を掘ろう！  
 1節 出土遺物が語る岩陰での日々  
 2節 遺跡守たち-遺跡を支えてきた人-
- 第4章 洞穴・岩陰遺跡を調べてみよう！  
 - 四国とその周辺地域 -

■展示する主な遺跡

上黒岩岩陰遺跡 (愛媛県久万高原町)  
 粥見井尻遺跡(三重県)・桐山和田遺跡(奈良県)・帝  
 釈馬渡岩陰遺跡(広島県)・宝伝岩陰遺跡(徳島県)・  
 奥谷南岩陰遺跡(高知県)・不動ヶ岩屋洞穴遺跡(高知  
 県)・二日市洞穴遺跡(大分県)・柏原遺跡群(福岡  
 県)・門田遺跡(福岡県)・泉福寺洞穴遺跡(長崎県)・  
 小ヶ倉A遺跡(長崎県)・白鳥平B遺跡(熊本県)・河  
 陽F遺跡(熊本県)・堂地西遺跡(宮崎県)・椎屋形第  
 1遺跡(宮崎県)・掃除山遺跡(鹿児島県)・椀ノ原遺  
 跡(鹿児島県)そのほか多数の遺跡

企画展

## 上黒岩岩陰遺跡とその時代

～縄文文化の源流をたどる～

会期 2005年7月16日(土)～9月5日(月)  
 月曜日休館  
 ただし7月18日(月・祝)、8月1日(月)、8月15日(月)、9月5日(月)  
 は開館。  
 7月19日(火)、8月2日(火)は休館。

会場 企画展示室  
 特別協力・後援:  
 久万高原町教育委員会、愛媛新聞社  
 NHK松山放送局、南海放送、テレビ愛媛、あいテレビ、愛媛朝日テレビ  
 愛媛CATV、FM愛媛

観覧料	企画展	企画・常設展共通
大人	500円(400円)	700円(600円)
小中学生	—	250円(200円)

\*( )内は20名以上の団体料金  
 \*65歳以上の方は常設展・企画展とも無料



▲上黒岩岩陰遺跡の調査風景



▲縄文時代草創期(12000年前)の資料群



▲隆起線文土器

文書展示室  
新収蔵文書の紹介



▶宇和島藩領絵図  
宇都宮由美子氏蔵・当館保管



◀神道裁許状  
鎌田正躬氏蔵・当館保管

博物館では、平成一六年四月からの一年間で多くの貴重な古文書を収集することができました。現在、それら新収蔵文書について紹介展示をしています。

収蔵した古文書は、別記のとおりでその伝来や性格は多岐にわたります。また、県内各地域のものが集まり、伊予八藩のうち六つの藩領に関連するという多彩な地域性にもなっています。古文書は、先人たちが書き残した地域の記憶の断片です。それを感じ取っていただければ幸いです。

【展示中の新収蔵文書】

- ・西条藩領船屋村（西条市）の村方文書「船屋村文書」
- ・今治藩領妻鳥村（四国中央市）の豪農の文書「廣田家文書」
- ・松山藩領久米村（松山市）の商家文書「浅井家文書」
- ・新谷藩領出海村（大洲市）の庄屋文書「兵藤家文書」
- ・大洲藩領櫛生村（大洲市）の宮司の文書「鎌田家文書」
- ・宇和島藩関係コレクション「宇都宮寛重郎氏収集資料」
- ・菅田村（大洲市）輩出の近代政治家の文書「菅田村有友家文書」



季節  
モノ 図鑑

⑤

実盛人形（虫送り）  
さねもりにんぎょう  
〜豊作への祈り〜

実盛送りとは、害虫退散、五穀豊穡を祈願する行事です。源平合戦で平家方の武將齋藤別当実盛が稲の株に足を取られて討死をし、これを恨んで害虫へと転生した伝説に由来するものです。南予の実盛送りは、「実盛さま」と呼ばれる人形を川上から川下の集落へと順に送ります。各集落の人々が念仏供養を行い、鉦や太鼓ではやしなながら田の畦道を歩いて送っていきます。写真は六月の最終日曜日に行われる西予市城川町魚成の実盛送りで使われる実盛人形です。実盛送りは川筋単位で行われ、川と村のくらしとの密接な関わりを今に伝える行事の一つです。

（学芸員 松井 奏）

ちえのわ教室



からくりおもちゃ

まんげきょう(万華鏡)をつくらう!!

4月～6月のちえのわ教室では、紙筒とビーズやセロファンなどを使って作ります。小さくあけた穴からのぞくと、色とりどりのきれいな模様が見えてきます。どんな模様が見えるかな？

日時：毎週土・日曜日 13:00～16:00  
(受付は15:00まで)

場所：体験学習室  
参加費：150円（材料費）  
お問い合わせ：振興課企画普及係  
0894-62-6222

これからのよてい

7・8月

企画展関連  
貝のアクセサリーを  
つくろう!!

9・10・11月

バランスゲームを  
つくろう!!

\*実盛人形は民俗展示室2にて展示しています。



資料名  
愛媛県最古の土器  
(久万高原町上黒岩岩陰遺跡出土)

年代

縄文時代草創期

サイズ

最大幅六、五cm

所蔵

愛媛県教育委員会蔵

愛媛の山村で、のちに世界の考古学界から注目される遺跡が発見されたのは、昭和三六年五月のことでした。整地作業のため父親が家の近くで採取していた土の中から、中学生の息子さんが貝殻に混じった土器や獣骨の破片を見つけ、学校の先生に届けたのがきっかけでした。その後、ここは「上黒岩岩陰遺跡」とよばれるようになり、昭和四五年まで五回にわたる発掘調査が行われました。写真の土器は、昭和三七年七

月の二回目の調査時に、同遺跡の最も下の地層から出土したものです。当時の新聞には、それまで中部以東でしか出土していなかった石ヤリの穂先とともに発見されたもので、長崎、山形、埼玉の三県で同種の土器が見つかったというほかに、中四国では初めての出土であり、大変貴重なものであると記されています。また、この土器は、同じ層から出土した木炭の放射性炭素の測定により、約一万二千年前のものであることが分かりました。

(主任学芸員 亀井英希)



資料名  
宇和島闘牛取組表

年代

昭和初期

サイズ

縦一三、一cm／横二五、二cm

所蔵

当館蔵

写真は昭和初期の宇和島闘牛の取組表です。主催者は南予牛角力協会、会場は丸穂土俵です。当時は闘牛を「牛角力(うしずも)」と呼んでいました。日本の闘牛はスペインのような人対牛の形式ではなく、牛と牛が闘う格闘技です。現在、日本では沖縄(県・鹿児島県徳之島・愛媛県南予地方・島根県隠岐島・岩手県山形村・そして新潟県小千谷市・旧山古志村)で行われています。日本の闘牛の特徴は、相撲文化の影響を強く受けていることです。横

綱・大関などの番付や闘牛場を土俵と呼ぶことなど日本の闘牛は相撲に見立てることが一般的です。ちなみに韓国では闘牛はトーナメント方式で、一頭の牛が一日に数回の試合を行う形式となっています。なお、南予地方の闘牛習俗は、国選択無形民俗文化財であり、平成十三年には『南予地方の牛の突きあい習俗調査報告書』(友の会にて発売中、千六百元。)が刊行されています。

(主任学芸員 大本敏久)

\*愛媛県最古の土器は6月から歴史展示室1(「愛媛のあけぼの」)に展示します。  
\*宇和島闘牛取組表は民俗展示室2(「愛媛のくらし」)にて展示しています。



資料名  
**押型文土器**

おしがたもんじき  
(久万高原町上黒岩岩陰遺跡出土)

年代

縄文時代早期

サイズ

最大幅五、一cm／器厚〇、八cm  
(下段中央の資料)

所蔵

愛媛県教育委員会蔵

小さい頃、粘土を平たく伸ばし、そこにいろいろなもの回転させては、模様を付けて遊んだ記憶はありませんか？写真の資料は、まさしくその原理で文様が施されている土器の破片です。

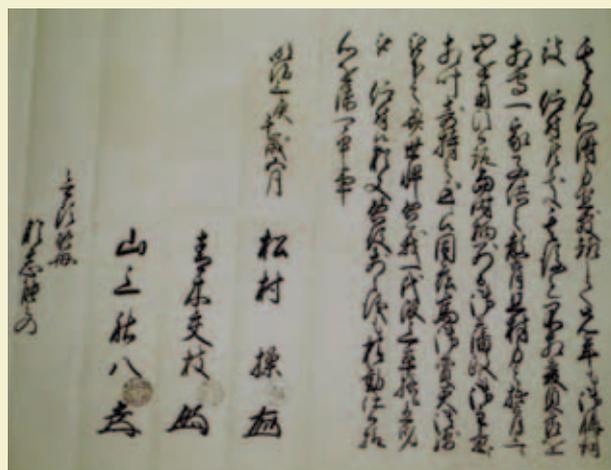
この土器は押型文土器と呼ばれるもので、縄文時代早期に、日本列島のほぼ全域で使われていました。その器面に施されている文様は、鉛筆のような丸い棒状のものに、ジグザグの刻みをした山形文や米粒状の楕円文等を彫刻し、それを土器の器面

に転がして付けたものです。これには装飾性とともに器面調整の効果があると思われます。

現在、愛媛県では四十四箇所の遺跡で押型文土器が確認されています。特に久万高原町の上黒岩岩陰遺跡第IV層では豊富に出土しており、なかには山形文と楕円文を交互に施した地域性の高い押型文土器も認められます。

小さな土器の破片の中にも、縄文人の美意識と技術を垣間見ることがができます。

(学芸員 兵頭 勲)



資料名  
**兵藤啓上卒格仰付書**

ひょうどうひらくじょうそつかくおせつけしよ

年代

明治三(一八七〇)年

サイズ

縦三六・六cm／横四九・二cm

所蔵

兵藤正帛氏所蔵・当館保管

本資料は、明治三(一八七〇)年に、新谷藩から出海村庄屋兵藤啓の母おしのに宛てた仰付書です。

出海村(現大洲市)は伊予灘に面し、煎海鼠などの豊かな海産物と廻船が出入りする良港を持つ漁村でした。兵藤家は、中世においてはこの地の城主を、江戸時代に入ってから代々出海村庄屋をつとめました。その傍らで寺子屋を経営し、村内の子供達の教育を行っていました。昨年、本資料とともに寄託

していただいた兵藤家資料には、この時に使用された教科書が数多く含まれています。

内容は、父の急病のため幼少の時に庄屋を継いだ啓を支え、村内の子供たちに対しても教育を行った啓の母おしのの働きを認め、新谷藩が啓を上卒格に命じたものです。江戸時代における女性の活躍が伺える資料としてたいへん希少であるといえます。啓は、明治維新後、出海村庄屋をつとめるなど、村の近代化に貢献しました。

(学芸員 安永 純子)

\* 押型文土器は企画展「上黒岩岩陰遺跡とその時代」において展示されます。  
\* 兵藤啓上卒格仰付書は文書展示室に展示しています。

# 2005 Community college

## 平成17年度 南予コミュニティ・カレッジ

心の豊かさや教養を高めるとともに、実社会において必要な知識や技術を習得するために、年齢、性別、職業を問わず気軽に学習する場として、南予コミュニティ・カレッジを7月23日から開講します。皆さまの受講をお待ちしています。

教養コース	健康・福祉講座	8回	60人	健やかで心豊かに生活するため、心と身体健康や社会福祉、スポーツレクリエーションなどについて幅広く学習します。
	文学講座	8回	60人	さまざまな文学に親しみながら、その時代の文学の特質を学び、心の豊かさを養います。
実用コース	英会話講座	10回	60人	英会話をこれから始めようとする人のための、基本的・初歩的な英会話を学びます。
	パソコンによる 文書作成入門講座 1 / 2	各 6回	各 18人	初心者の方を対象に、ワープロソフト『Word』の基本操作および関連知識を学び、日常生活での活用を図ります。
	パソコンによる 情報活用入門講座 1 / 2 / 3	各 6回	各 18人	初心者の方を対象に、パソコンの概略説明やインターネットを体験して、基本操作や関連知識を学び、情報活用能力の向上を図ります。
再発見コース ふるさと	ふるさとおもしろ講座	7回	60人	愛媛の「装いとくらし」をテーマに、愛媛の装いをめぐる原風景を様々な視点から考察し、愛媛の魅力を探ります。
	わくわく愛媛の博物館講座	6回	60人	博物館の専門分野を中心とした調査研究の内容を、詳しくかつ分かりやすい解説により学び、博物館ならではの視点から、ふるさと愛媛の魅力を探ります。
	まるごと愛媛の研究機関講座	6回	60人	農業・水産・畜産・工業・製紙・窯業の各産業の現場で研究を続けている県の研究機関の成果を学ぶことにより、特色ある郷土の産業への関心・興味を深めます。
特別コース	手話講座	8回	30人	基本的な手話について学ぶとともに、聴覚障害者に対する理解を深めます。
	ボランティア講座	7回	30人	ボランティア活動の理念や意義を学ぶとともに、実践事例の紹介や体験などを通じてボランティア活動に対する理解を深めます。
	環境講座	8回	60人	社会の進展や生活様式の変化に伴い、ますます関心が高まっている環境問題について、身の回りの環境保全の観点から学習し、私たちのライフスタイルを考えます。

- 受講料 無料。但し教材費等の実費については、受講者の負担となります。
- 申込方法 所定の申込用紙でお申し込みください。なお、お一人で複数の講座を受講することができます。（パソコン関連講座の複数受講は除く）
- 申込期限 6月30日[木]（定員を超える場合は抽選になる場合があります）

### お問い合わせ・お申込

愛媛県歴史文化博物館 振興課  
生涯学習係 TEL(0894)62-6222

## 新刊のごあんない



- 資料目録第12集  
『四国遍路資料目録』 500円
- 資料目録第13集  
『伊予陶磁器関係資料』 300円
- 『研究紀要第10号』 700円

当館での収集資料や調査研究の成果をまとめた資料目録・研究紀要の新刊が3冊刊行いたしました。

購入をご希望される方は友の会事務局までお問い合わせください。

### お問い合わせ

愛媛県歴史文化博物館内  
友の会事務局 TEL(0894)62-6222

## 臨時休館のおしらせ 6月21日(火) - 22日(水)

博物館では年に1回、収蔵資料をカビや害虫から守るため、くん蒸(虫・菌の防除)を行っています。  
そのため、6月21日(火)・22日(水)は臨時休館となります。

### 講演会

演題:「回顧 上黒岩岩陰遺跡—発掘よもやま話—」  
日時:平成17年8月7日(日) 13:30~15:00  
講師:岡本健児氏(高知女子大学名誉教授)

### 歴史文化講座

#### 歴史講座

□中世貴族西園寺氏と伊予国①・②  
日時:8月28日(日)・9月25日(日) 13:30~15:30  
講師:石野弥栄(当館学芸課長)

#### 民俗講座

□和霊信仰の成立と背景—南予の民間信仰—  
日時:7月10日(日) 13:30~15:30  
講師:佐々木正興(日本民俗学会会員)

□伊予の修験道—松山藩を中心に—  
日時:9月4日(日) 13:30~15:30  
講師:竹島大祐(日本民俗学会会員)

□方言にまつわる愛媛の記憶—地域語と中央語のはざま—  
日時:9月18日(日) 13:30~15:30  
講師:西村浩子(松山東雲女子大学教授)

#### 考古講座

□探検!上黒岩岩陰遺跡—企画展のみどころ—  
日時:7月17日(日) 13:30~15:30  
講師:兵頭 勲(当館学芸員)

□上黒岩岩陰遺跡とやまなみの遺跡  
日時:7月24日(日) 13:30~15:30  
講師:長井数秋(愛媛考古学研究所所長)

□上黒岩岩陰遺跡と大分県の洞穴遺跡  
日時:7月31日(日) 13:30~15:30  
講師:橘 昌信(別府大学教授)

□上黒岩岩陰遺跡と縄文時代草創期の石器群  
日時:8月21日(日) 13:30~15:30  
講師:多田 仁((財)愛媛県埋蔵文化財センター主任調査員)

#### 文書講座

□南予の古文書を読む①・②  
日時:9月11日(日)・10月16日(日) 13:30~15:30  
講師:藤田儲三(日本民俗学会会員)

#### 体験講座

□土器片レプリカをつくろう  
日時:7月23日(土) 13:30~15:30  
講師:亀井英希(当館主任学芸員)

□ガラス玉をつくろう  
日時:8月27日(土) 13:30~15:30  
講師:富田尚夫(当館主任学芸員)

#### ◆申込方法

希望する講座名とご住所・お名前・年齢・電話番号など必要事項を記入の上、郵送やFAXなどでお申し込みください。

#### お問い合わせ

振興課 企画普及係  
TEL(0894)62-6222  
FAX(0894)62-6161

### 友の会 NEWS

## 友の会会員を 募集しています。

友の会は、博物館を利用し、愛媛の歴史や民俗などに親しみ、会員相互の親睦を深めることを目的とした会です。特典では、「友の会報」や「歴博だより」等刊行物の送付されるほか、常設展・企画展の無料観覧や友の会主催行事へ参加などがあります。入会方法は次のようになっています。みなさんも、ぜひこの機会に入会してみませんか。

◆お問い合わせ 友の会事務局 TEL(0894)62-6222

◇入会方法 ◇会費

区分	会費
個人会員(中学生以下)	2,000円
個人会員(高校生以上)	3,000円
家族会員	4,000円
賛助会員	10,000円

会費をご持参の上、歴史文化博物館に直接お申し込みください。または、郵便振替払込取扱票に、名前・住所・郵便番号・会員の種類を記入の上、郵便局で会費をお振り込みください。

◇口座番号 01610-0-45873

愛媛県歴史文化博物館友の会

### 予告巡回展

## いま・むかし おもちゃ大博覧会

—入江正彦 児童文化史コレクション—  
10月4日[火]~11月27日[日]

本展では、故入江正彦氏が収集した児童文化史コレクションの中から、江戸時代より現代にいたるまでのおもちゃなど約400点を紹介します。



鉄人28号 昭和30年代  
©光プロダクション

### 今季の表紙

## 上黒岩岩陰遺跡出土線刻礫

上黒岩考古館、国立歴史民俗博物館蔵

表紙の線画は、5cmほどの扁平な小石(左写真)に描かれています。この石は、長い髪と腰蓑、乳房が描かれ、女性を表現していると考えられています。子供を産むことが出来る女性の豊かさや生命力を信仰の対象として、自然の恵みや、子供の誕生を願う道具として使っていたのでしょうか?



愛媛県歴史文化博物館

No.42  
**歴博だより**  
Museum of EHIME History and Culture's News

発行日 平成17年6月1日  
編集/発行 愛媛県歴史文化博物館  
〒797-8511  
西予市宇和町卯之町四丁目11番地2  
TEL(0894)62-6222 FAX(0894)62-6161  
http://joho.ehime-iinet.or.jp/rekihaku  
印刷 明星印刷工業株式会社